

学校における服務管理簿のデジタル化 ～学びと協働でつなぐ校務DX、行政の理想を現場の使いやすさへ～

栃木支部：那珂川町立小川中学校

主任 元橋 悠季

(事務職員経験4年目)

【背景と目標】

近年、社会全体で「働き方改革」が推進され、学校現場でも業務改善が急務となっています。その取組として、多くの自治体で勤怠管理システムの導入や各種帳簿への押印の廃止が進められ、本町においても同様の取組がなされてきました。しかしながら、実際の学校現場では、出勤簿や旅行命令簿、休暇簿といった服務の管理は依然として紙と押印が用いられています。紙ベースの管理では、全教職員分を作成する事務職員の時間的な負担はもちろん、記入する先生方にも帳簿を探す手間や記入ミスによる書き直しといった潜在的な負担が多くありました。こうした負担を解消することが業務改善につながる感じていました。

そんな中、本町の教育長から「出勤簿の電子化」という方針が示されました。当初は教育委員会主導での開発が検討されましたが、多忙な業務の中でのシステム構築や学校現場の実態に即した仕様の策定に課題があり、具現化には至りませんでした。そこで、現場の実態に詳しい事務職員であれば、現場で真に活用される『システム』として具現化できると考え、特別な予算を掛けずにどの学校でも導入可能なExcelを活用した服務管理簿(以下、デジタル出勤簿)の作成に取り組みました。単なるペーパーレス化にとどまらず、入力の手軽化や自動反映機能を備えることで、教職員がより教育活動に専念できる環境を整えることを目的としました。

【協働・取組】

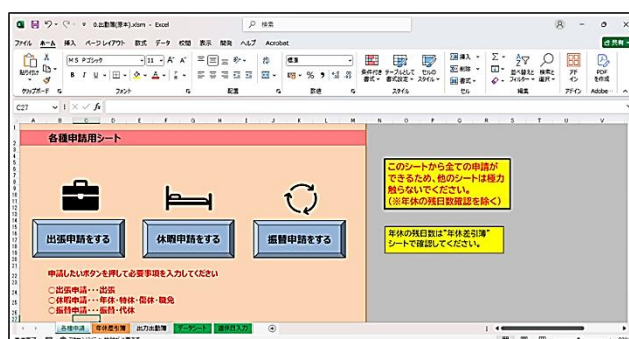
今回の取組は、那珂川町共同実施室長より共同実施として取り組むべき課題として挙げていただき、私がリーダーとなり課題解決に努めました。実際の取組は「①デジタル出勤簿の作成と押印廃止の制度改正」と「②試験的運用とフィードバックによる改善」の2段階に分けて行いました。

①デジタル出勤簿の作成と押印廃止の制度改正

デジタル出勤簿の作成に当たり、まずは単純にExcelに入力するだけの方式を試みました。しか

し、これでは申請や承認の手間が従来の紙と比べて大差なく、根本的な解決にはならないとすぐに分かりました。このことから、課題解決にはマクロ機能の習得が必要不可欠であると考え、独学で学びながら作成に取りかかりました。

またデジタル出勤簿の作成と並行して、制度的な問題の解決も必要でした。これまでは、申請者本人に関しては押印又はサインでも問題ありませんでしたが、承認者は押印が必須でした。この制度的な問題を解決するには教育委員会との協働が不可欠でした。そこで教育委員会の担当者と密に連携を取り、最大の懸案事項であった「申請者及び承認者の押印」を電子サインで代替できるかを確認しました。その結果、代替が可能であるという回答を得ることができました。



＜デジタル出勤簿 申請画面＞

＜出張申請画面＞

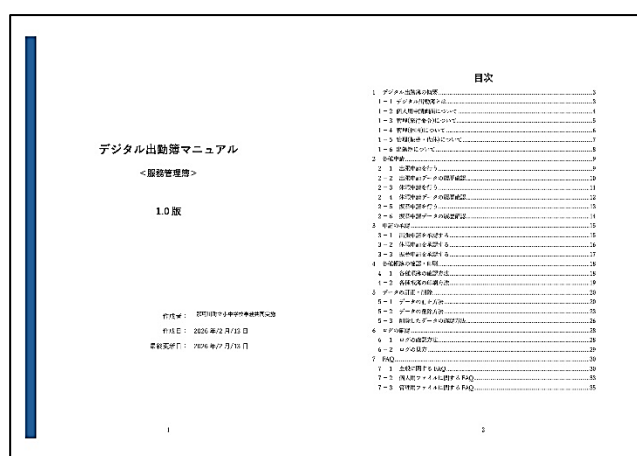
②試験的運用とフィードバックによる改善

一通りのシステムが完成した段階で、より現場の

学校事務実践事例（令和7年度）コピー・転載禁止

ニーズに応えた実用的なものにするために、改善を行いました。まずは町内の事務職員に試作品を共有し、専門的な視点から操作性や機能に関するフィードバックをいただきました。その結果、不具合や改善点を洗い出し、修正をすることができました。11月からは、町内の全ての学校で管理職と事務職員を対象に試験的運用を開始しました。さらに1月には使用者の意見を収集するアンケート調査を実施し、より客観的な視点からシステムの課題を把握しました。

試験的運用の結果を踏まえた最終調整に加え、誰でも迷うことなく利用できるように、管理者向けと教職員向けの2種類のマニュアルも作成しました。



＜管理者向けデジタル出勤簿マニュアル＞

【成果と課題】

デジタル出勤簿の試験的運用に協力してくださった町内の管理職や事務職員からは、「操作が直感的で迷わずに申請ができてわかりやすい」、「事務職員の視点で作られているため管理がしやすい」、「マニュアルに図が多く、視覚的にもわかりやすくて良い」といった好意的な意見を多く頂きました。この反応から、従来のやり方を新しいツールに変える際の抵抗感をなくし、現場で受け入れられる土台ができたと考えています。

業務改善の点では、これまでの紙での申請のときは帳簿を探す手間や、他の人が記入している最中は申請ができず書き終わるのを待つしかない、など多くの時間を要していました。しかし、デジタル出勤簿が導入されれば自分のパソコンから申請ができるようになるため、時間の削減につながると考えます。また、申請者と承認者の両方が押印不要となり、負担軽減につなげつつ、服務管理簿としての真正性を担保した電子化ができました。

完成したデジタル出勤簿は、業務改善への寄与と真正性が担保されている点から、教育委員会の確認と承認を得ることができ、来年度から町内の全ての学校で導入されることとなりました。

今回の取組で、若手の私が主体となり、専門知識を身に付け、周囲との協働を通じて、一つのシステムを形にできたことは、私にとって大きな自信となりました。また、那珂川町共同実施室長からは「学校現場で使いやすいようにと、多くの人から意見を集め、それらを反映させるなど、工夫を重ねて作られたこのシステムはとてもすばらしいものだと思います。特に年度末や年度始めの忙しい時期の負担が軽減されるのは、私たち事務職員にとって本当にありがたいことです。また、若手ならではの感性を生かしながらも、リーダーとして周囲としっかりと協力できていた姿は本当に頼もしい限りです。」という感想をいただきました。

今後の課題として、来年度からの本格導入に当たり、導入初期に想定される様々な質問に各校で対応できるような体制を整えることが急務であると考えます。また、担当者が変わってもシステムを運用し続けられるような仕組みを作ることも、今後の重要な課題であると考えます。

【教訓】

今回の実践を通して、自発的に学ぶことの大切さと協働の重要性を学びました。実践に取り組む前の私は、Excelのマクロの知識がほとんどありませんでした。しかし、専門知識がないからと諦めるのではなく、「先生方の負担を減らしたい」という目的のために、自発的に新しいことを学ぼうとする姿勢が今回の実践の基盤となりました。また今回の取組は私一人では成し遂げることができませんでした。教育委員会との制度確認、町内事務職員からの助言、試験的運用に協力してくれた先生方からのフィードバックといった多様な立場の人たちとの協働があったからこそ、現場で運用できるシステムを作り上げることができました。一人でやらずに周囲と協働し意見を取り入れて改善を行うプロセスは、今後の事務職員のあり方として重要であると学びました。

本実践で得た知識や経験を礎として、今後も学校における課題解決に主体的に取り組んでいこうと思います。